

ラフティング・スプリント 6 人制レース競技規則 ver.1

1. 競技種目

スプリント 6 人制レース（予選タイムトライアル&決勝トーナメント方式）

コースー堂床～West・West の約 400m 区間で行う。

※大会主催者の判断で、増水・天候などによりコースを変更、中止する場合がある。

2. 参加登録制度

- ・参加者 1 人当たり 3,000 円を大会主催者に収めること。
ただし、6 人をこえる場合、補欠者は 1 人当たり 1,000 円とする。
また、欠員の場合、いかなる理由でも返金には応じない。
参加登録費には傷害保険加入料と軽昼食代金を含む。
天候などの理由で当日、レース開始前に中止になった場合は、軽昼食代を差し引いた代金を返金とする。
- ・1 チーム当たり 6 人までとする。ただし、5 人での参加も認める。
※ジャパンカップの成績対象チームは、R6 男子、R6 女子、R6 オープンの 3 部門となる。（登録など詳細はジャパンカップ規約参照）
- ・1 チームのメンバーが 6 人をこえる場合、2 人までの補欠メンバー登録を認める。
- ・参加登録後のメンバー（補欠メンバーも含む）の追加・変更は、いかなる理由があっても認めない。また、選手登録にない者が出場した場合、そのチームは失格となる。
- ・参加登録している補欠メンバーと、大会期間中にメンバー変更ができる。ただし、競技の開始から終了までの間、メンバーの変更はできない。各競技間（1 回戦と 2 回戦の間など）でのメンバー変更もできない。上記に反した場合は、そのチームは失格とする。
- ・各チームには必ず 1 人チームキャプテンがいること。チームキャプテンは、メンバーの安全確保に責任を持ち、大会期間中のキャプテンミーティングなどの大会主催者が指定する説明会には必ず出席し、スムーズな大会運営に協力すること。
- ・参加者は、競技期間中の行動を自己責任で行い、事故が生じた場合、大会主催者およびその代理人やチームメンバー、チームキャプテンにその責任を問わないこと。

3. ポイント規定

- ・順位に応じたポイントを付ける。
- ・ジャパンカップカテゴリー登録チームにおいては、大会リザルトと別に、ジャパンカップ規約に基づいたカテゴリー毎の順位を決める。

| | | | | | | | | | | | | |
|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----------------------|-------|
| 順位 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11, 12, . . . 22, 23 | 24 以下 |
| ポイント | 30 | 26 | 23 | 21 | 20 | 19 | 18 | 17 | 16 | 15 | 14, 13, . . . 3, 2 | すべて 1 |

4. 装備規定

出場チームは、大会主催者、またはその代理人による各装備の検艇、装備確認を受けることを義務づける。装備規定を満たさないチームには大会出場停止を勧告することがきる。また、止むえない事情による競技期間中のボート変更は、改めて検艇を受けることで認められる。

【ボート】

- ・ ホワイトウォーター仕様の自動排水機能（セルフペイラー）を備えたラフティング用インフレーターボートに限る。
- ・ 全長 **380cm** 以上、幅 **180cm** 以上で、2 ないし 3 スウォートを搭載し、5 気室以上を有するボートを使用すること。
- ・ 規定に則ったボートが必要な場合、大会主催者管理のレンタルボート（有料）での出場も可能である。ただし、レンタル希望多数の場合、十分な数のレンタルボートを用意できない場合がある。その際は、予約順のレンタルとする。あるいは、複数チームで共用の場合がある。
- ・ すべてのボートはアウトサイドチューブにセーフティラインを装備しなければならない。
- ・ フットストラップの装着やロープによる予備パドルの固定、スローロープの固定は大会主催者、またはその代理人が安全性を点検し、認められれば可能とする。
- ・ 検艇後のボートの改造、変更は一切禁止する。該当したチームはただちに失格とする。

【パドル】

- ・ T グリップのあるラフティング・カヌー用に設計されたシングルブレードパドルを使用すること。
- ・ 乗船している人数より最大 1 本までの予備パドルの携行を認める。

【PFD】

ホワイトウォーターでのラフティング、カヌー用に設計された浮力が **7kg** 以上ある PFD（パーソナルフローティングデバイス）を着用しなければならない。劣化が激しく浮力に問題があると大会主催者、またはその代理人が判断した PFD の使用は認められない。

【ヘルメット】

ホワイトウォーターでのラフティング・カヌー用に設計されたヘルメットを着用しなければならない。

【シューズ】

足を保護するシューズ、もしくはリバー用ブーツ、リバーサンダルなどを着用しなければならない。

【その他の装備】

スローロープ、リバーナイフ、ホイッスル、フリップラインはチームで最低各1個以上を携行することが望ましい。

5. 競技規定

【参加資格】

- ・満15歳以上の心身ともに健全な男女で、本大会の開催趣旨に賛同できる者であること。
- ・参加者は大会主催者が提示する誓約書に署名できる者でなければならない。
- ・本大会の開催場所において、自己責任でレースできる技術（セルフレスキュー）を有していること。
- ・チームメンバーにラフティング大会経験者、または商業ラフティングのリバーガイドを1人も含まない場合は、レース前に主催者が開催、または指定する安全講習を受講しなければならない。
- ・大会主催者、またはその代理人が参加者に上記の資格がないと判断した場合、その責任において該当のチームに出場の停止を命じることができる。
- ・増水や天候などにより、開催当日、コースの難易度が著しく上がった場合、安全を考慮し、大会主催者の判断で、上記の資格を有した参加チームであっても、その技量に応じ、出場の停止を命じることができる。

【出艇方法および注意事項】

- ・スタートは川岸、またはボートなどにラフトボートのスターン（後部）を固定させて、大会主催者、またはその代理人のスタートの合図で出艇する。
- ・ゴールはゴールラインをボートの一部がこえた時とする。

【予選タイムトライアル方式】

- ・1チーム毎、番号順に1分間隔で出艇し、タイムトライアルを行う。上位16チームのみ決勝トーナメント戦に出場できる。17位以下のチームは予選タイムにより順位を決定とする。
- ・参加チームが15チーム以下の場合、全チーム数が偶数の場合は、全チームが決勝トーナメント戦に出場できるが、全チーム数が奇数の場合、タイムトライアル最下位のチームは、順位は最下位で決定となり、決勝トーナメント戦には出場できない。
- ・参加チーム数や各チーム人数などにより、順位決定方法や組合せを変える場合がある。

【決勝トーナメント方式】

- ・ 決勝トーナメントの出艇枠番は予選タイムにより決められ、その配置は予選の開始前までに公表する。なお、図 1（次ページ）の組み合わせを予定している。
- ・ 2 艇同時スタートのヘッドトゥヘッド（H2H）によるトーナメント勝ち抜き戦とする。
- ・ トーナメントの決勝 1 回戦のスタート位置の決定権は、予選のタイムトライアルでの順位の高いチームに与える。また、2 回戦以降のスタート位置の決定権は、その前のレースでの航下タイムの早いチームに与える。

【競技ペナルティー】

- ・ フライングは 50 秒のペナルティーとする。2 回のフライングは、失格とする。
- ・ ラフトボート上に競技者全員が乗っていない状態で、ゴールラインをこえた場合、50 秒のペナルティーが加算される。
- ・ ラフトがフリップした状態でゴールラインをこえた場合は、50 秒のペナルティーが加算される。
- ・ 他チームの妨害やスポーツマンシップに反する行為をしたと大会主催者が判断した場合、1 行為について 10 秒のペナルティーが加算される。
- ・ 競技コース内でフリップ、落水により危険な状況に陥った際、大会主催者、またはその代理人の判断により、救助を行う場合がある。ただし、レスキューを受けたことによるペナルティーは一切生じない。

【特別規定】

- ・ 増水や天候などによりレースの安全な運営を十分図れないと大会主催者が判断した時は、以下のような方法で順位決定や運営を行う場合がある。
- ・ 1 艇ずつのタイムトライアル方式のみで最終順位を決める場合がある。
- ・ コースを変更する場合がある。
- ・ チームの技術レベルが、コース難易度に適さないと判断した際は、出艇できない場合がある。

6. 競技判定に関する抗議規定

- ・ 競技の判定について抗議がある場合は、5,000 円の預託金を大会主催者に添えて、抗議することができる。抗議が認められた場合、この預託金は返金されるが、認められない場合は大会主催者が没収する。
- ・ 抗議はレース結果発表から 15 分以内にチームキャプテンにおいて、大会主催者に申し立てなければならない。いかなる場合においても、大会主催者のスタッフなどに直接抗議することは認められない。

7. 特別減点規定

競技期間中を通して、アンフェアな行為、他者に危険を及ぼす行為、大会およびスタッフの名誉を傷つける行為や言動、地域住民や施設に対する迷惑行為などがあった場合、大会主催者の判断により、減点処置、または大会出場停止、または退場の処置を科すことができる。

8. 競技期間中の写真、ビデオの規定

大会主催者、またはその代理人が撮影する競技期間中の写真、ビデオなどを大会の目的のために使用する場合、参加者はその肖像権を放棄すること。

9. 資料

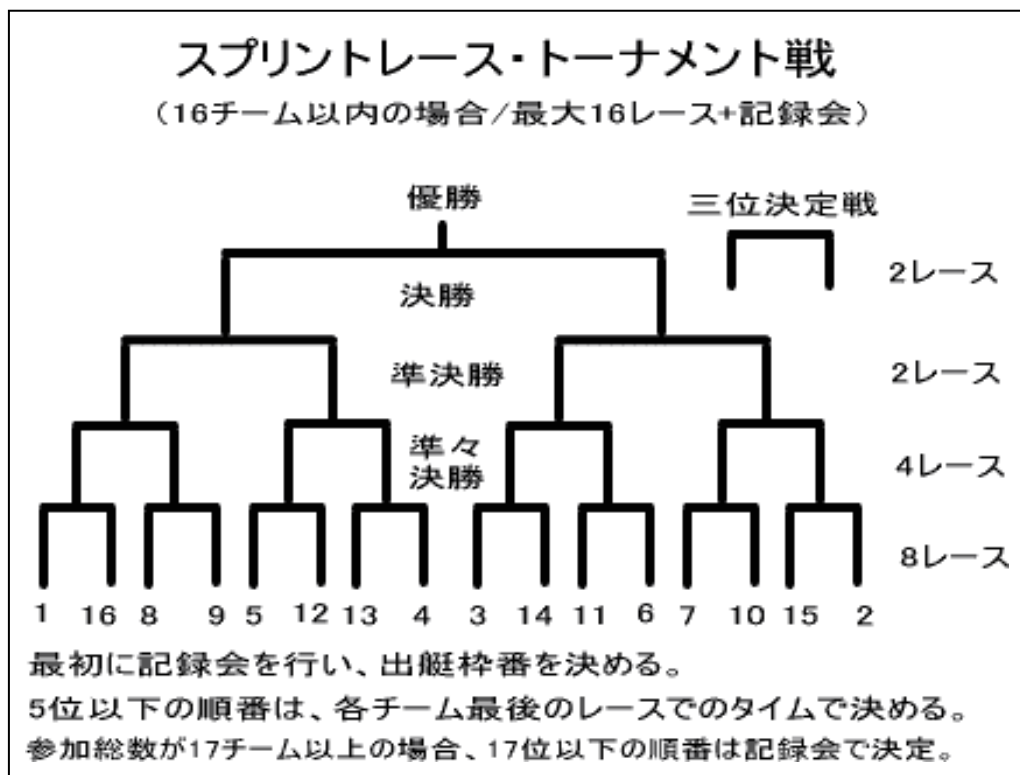


図 1. 決勝トーナメントの方式と枠番 (予定)